

ウメト インフォメーション

2020年 12 月 11 日 担当 小松

▶鹿島道路/シートタイプの舗装補修材を改良/短時間で簡単補修 [2020年12月10日3面]



補修作業の様子

鹿島道路はシートタイプの舗装補修材「PMR99」を改良した「PMR99+（プラス）」を10日に発売する。路面のひび割れなどを素早く補修する。従来製品は別売りの接着剤を塗布する必要があった。PMR99+は舗装に貼りつける面にあらかじめ粘着層があり、離型紙を剥がせばそのまま貼って使えるため、作業がより簡単になる。

PMR99+は1枚当たり縦500ミリ、横500ミリ、厚さ5ミリ。4枚1セットで販売する。希望小売価格は1セット1万1000円。年間1000セットの販売を目指す。

裏面に粘着層があり、離型紙を剥がして材料をひび割れ部分に置くだけで作業が完了する。貼った箇所を踏み固めなくても、シートの上を通過する車体の荷重で自然に材料が路面のひびなどに侵入して一体化する。シートと路面が一体化することで水の浸入による破損の進行なども防ぐ。

従来製品と比べて、作業時間をさらに短縮できる。供用中の高速道路などで急きょ補修する際も短時間で作業を完了できるため、補修するスタッフの安全性も高まる。補修後は即時に交通開放でき、緊急を要する現場のニーズに対応する。

ポットホールの補修では、常温合材と併用することで補修効果をさらに高められる。ポットホールに常温合材を詰め、その上にPMR99+を貼ってふたをすれば常温合材の飛散も防止できる。

一般的にシートタイプの舗装補修材はガラス繊維などを含んでいるのに対し、PMR99+は高粘度アスファルトで構成するため、打ち替えの際にプラントで廃材を再生処理できる。

ウメト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他()

2020年12月11日

担当者：若崎

サウジ主導提案を否決

OPEC内部の不和が顕著

加盟国に順守疲れ

【ニューヨーク11日電】OPEC（石油輸出国機構）は、現在の770万バレルの減産を2021年第1四半期（1～3月）までさらに延長するサウジ主導の提案を支持することを拒否し、市場を揺らした。さらに交渉が1週間、難航した末、1月から月あたり平均50万バレル徐々に増産し、最終的に合計200万バレルを増産するとの驚くべき決定をまとめた。

需要の見通しが非常に不透明なことも供給側のさまざまな問題を考えると、増産はその都度、月例の閣僚会議による承認が必要になるだろう。この措置によって、OPECプラスは、市場の突然の状況変化にもすばやく対応できるような心算で、一方で今週丸見えになったような組織のさまざまな亀裂をさらけ出す可能性もある。もっとも厄介なことは、4年間にわたるOPECプラスの供給管理の取組の原動力となってきたサウジとロシアの軸関係である。

ロシアおよびUAE（アラブ首長国連邦）は11月30日、50万バレルの増産を提示し、サウジの対抗案を提案し、今週のOPECプラスの話し合いにおよぶ会合のスタートとなった。サウジは、サウジのエネルギー相であるファルハン王子は、これに呼応してOPECプラスおよびOPEC（合同閣僚監視委員会）の共同議長を辞任するかもしれないとしたが、結局、要請により同議長に留任している。前例のない供給量に関する取引が合意された4月、OPECプラスは2021年1月1日に580万バレルの減産を開始するという段階的な減産緩和に合意した。しかし新型コロナウイルスによる需要低下およびロシアの供給量増加による脅威、さらには2021年からインプットの供給量も変わる可能性があるが再考せざるを得なくなった。さらには事態を混乱させているのは、新型ウイルスのワナフンによって注目を集めることとなった。

ロシア政府は先週、国内の石油業者各社に現在の減産が今後3カ月延長となる場合、増産を要するよう促していたことを考えると、ロシアの対抗案への関わりは意外だった。原油価格上昇を主とした共通の利益を追い求めているため、関係は修復されるはずだが、信頼関係はなかなか回復しないかもしれない。ロシアのノヴァテック副首相がファルハン王子の尽力を賞賛し、今月のサウジ訪問を約束するなど、ロシア政府はわだかまりを払拭したい考えだった。

多くのことは減産がどの程度、効果的にかかっている。OPECプラスは、増産する方法により来年度に供給過剰が拡大する可能性があることが警告したが、ロシアはこれを得るため提案を受け入れたという。

2020年の過剰生産を解消するための減産をするならば、要するに全体の生産量の増加は月当たり多くとも50万バレル以下でなくてはならない。これは直近のOPECの調査によれば、世界の在庫をある程度減らして5年間の平均水準に戻す唯一の方法は、現在の協議減産を3カ月以上延長することだ。ロシアとUAEが足並みを乱したことで、OPECプラスのより深刻な問題が浮き彫りになっている。ロシアの減産への参加は暫定的なもので考えられていたが、UAE政府がOPEC加盟国であることの長期的な価値を再評価するにあたり、UAEの問題も浮上している。

供給不足が、極端な予算の圧迫、OPECの中心地である中東海岸における地政学的な不安など、一度にこれらにも多くの課題に直面したことは、UAE政府は最近、イエメンの問題やカタルとの国交断絶を含む複数の政治的な問題を巡ってサウジと意見を異にしている。サウジはカタルに対して武力反対の姿勢をとっている。各加盟国のOPECからの脱退は目下、差し迫ってはいるが、緊張感は一掃されている。一国が脱退すれば雪崩のように次々と後続も可能性がある。OPECプラスは各加盟国に対して多くを求めているが、非加盟国は犠牲を払うことなく各加盟国と同様の利益を享受している。結局、OPECプラスの協力体制をまとめている唯一のものは、価格崩壊の脅威、新たな価格競争という無言の脅威だ。価格急落の記憶はいまだ鮮明で、それが続く間OPECプラスは有用だが、長期の持続可能な協力関係の鍵としては理想的ではない。

供給不足が、極端な予算の圧迫、OPECの中心地である中東海岸における地政学的な不安など、一度にこれらにも多くの課題に直面したことは、UAE政府は最近、イエメンの問題やカタルとの国交断絶を含む複数の政治的な問題を巡ってサウジと意見を異にしている。サウジはカタルに対して武力反対の姿勢をとっている。各加盟国のOPECからの脱退は目下、差し迫ってはいるが、緊張感は一掃されている。一国が脱退すれば雪崩のように次々と後続も可能性がある。OPECプラスは各加盟国に対して多くを求めているが、非加盟国は犠牲を払うことなく各加盟国と同様の利益を享受している。結局、OPECプラスの協力体制をまとめている唯一のものは、価格崩壊の脅威、新たな価格競争という無言の脅威だ。価格急落の記憶はいまだ鮮明で、それが続く間OPECプラスは有用だが、長期の持続可能な協力関係の鍵としては理想的ではない。

供給不足が、極端な予算の圧迫、OPECの中心地である中東海岸における地政学的な不安など、一度にこれらにも多くの課題に直面したことは、UAE政府は最近、イエメンの問題やカタルとの国交断絶を含む複数の政治的な問題を巡ってサウジと意見を異にしている。サウジはカタルに対して武力反対の姿勢をとっている。各加盟国のOPECからの脱退は目下、差し迫ってはいるが、緊張感は一掃されている。一国が脱退すれば雪崩のように次々と後続も可能性がある。OPECプラスは各加盟国に対して多くを求めているが、非加盟国は犠牲を払うことなく各加盟国と同様の利益を享受している。結局、OPECプラスの協力体制をまとめている唯一のものは、価格崩壊の脅威、新たな価格競争という無言の脅威だ。価格急落の記憶はいまだ鮮明で、それが続く間OPECプラスは有用だが、長期の持続可能な協力関係の鍵としては理想的ではない。

（訳）燃料油脂新聞

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年12月11日

担当者: 若崎

5カ月連続で増加

OPEC11月原油生産量

【ロンドン】OPEC (石油輸出国機構) の原油生産量が11月、5カ月連続で増加したことが明らかになった。情報筋によると、加盟国13カ国は前月比75万バレル増の2531万バレルだったという。減産が免除されているリビアで約70万バレル

増加したほか、UAE (アラブ首長国連邦) も目標を下回ったが前月から増えた。リビア同様に減産が免除されているイランとベネズエラも増加し全体の生

産量増につながった。ナイジェリアは、バイプラインの閉鎖が影響してOPEC最大の減少、イラクもわずかに減った。サウジアラビアとクウェートは前月

からはほぼ横ばいだったとした。一方、OPECプラスの協調減産に参加しているOPEC11カ国の順守率は11月、102%だったという。

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年 12月 11日

担当者: 岩崎

11月全米第4週原油在庫微減

【ニューヨーク】全米の原油在庫が11月第4週、前週からやや減少したことが明らかになった。EIA（米エネルギー情報局）によると、前週比240万バレル減の予想に対し、67万9000バレル減少して約4億8802万バレルになったという。

生産量10万バレル増や原油処理量25万1000バレル減が、在庫減を予想より小幅にしたようだ。	需要が再び減少したため、ガソリン在庫は350万バレル増の2億3370万バレル。ディーゼルやヒーターオイルなどの中間留分も320万バレル増の1億4580万バレルとした。
--	---

一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響